

## 第9回

**統計は知っている人に  
聞いてみよう**

統計を使うのに理論を完全に理解する必要はありませんが、正しい使い方をするために必要な知識は身につけておきましょう。統計を使う目的は大きく2つあり、記述統計と推測統計に分かれます。

他の人に測定値を一つひとつ示しても、全体を把握してもらうことはできません。測定値を整理してわかりやすく伝えるために、データを集めて意味のある数値にする集計を行うと前回までに述べました。さらに、平均を計算したり、分布を表やグラフで表したりします。このように、測定値を整理して集団の性質を説明する手法を記述統計といいます。平均値や標準偏差を計算することが多いですが、例えば、支給する制服のサイズを判断するには該当者が多いデータ範囲(最頻値)が必要ですし、一定の人数を選抜するためには上位何%かを分割する境界値(分位数)が必要となります。

(一財)宮城県成人病予防協会学術・研究開発室長  
小島 光洋

記述統計のほかに推測統計があります。2つの項目に関係があるか、2つの集団に差があるかどうかなどを推測するための手法です。前回紹介した $\chi^2$ (カイ2乗)検定のほかにt検定、分散分析、回帰分析などを学会発表でよく耳にします。TVや新聞で報道される世論調査は2,000人位の調査に基づく推測統計です。その数字は、どのくらい正確に日本全体の傾向を表しているでしょうか?

記述統計も推測統計も日常生活によく出てきます。統計のコツを知ると、生活のなかで使われている数字のウラも見えてきます。統計がよくわからなくても尻込みすることはありません。詳しい人に教えてもらいましょう。大切なことは、統計を用いて何を説明したいのかをはっきりさせることです。あなたの関心を統計の専門家は知りません。しっかり伝えて初めて教えてもらうことができます。これを繰り返すうちに使い方のコツが分かってきます。